

子供による医薬品誤飲事故に関する消費者安全調査委員会からの意見に対する  
対応について（3回目　追加）

令和元年 12 月  
厚生労働省  
医薬・生活衛生局医薬安全対策課

(消費者安全調査委員会からの質問事項)

昨年3月に御報告いただいた、日本製薬団体連合会安全性委員会の医薬品安全使用対策検討部会「C R 包装容器検討プロジェクト」において、各社における更なる対応を求めることが求められました。その後の各社におけるチャイルドレジスタンス包装容器に関する対応状況を御教示ください。また、チャイルドレジスタンス包装容器の国内における普及状況を御教示ください。

【回答】

日本製薬団体連合会においてアンケート調査を行った結果、製薬企業 119 社で C R 容器の検討を行っているが、現時点では、22 社、82 製品に C R が導入されていることが分かりました。C R を導入している製品の薬効群は、腫瘍用薬、化学療法剤等で、ボトル調剤（患者が自宅にボトルで持ち帰る）されているものが多く、また、比較的高薬価な製品で採用されていました。

尚、多くの企業では、未だ社会的なコンセンサスが得られていない C R を導入することにより、医療従事者や患者（特に高齢者）が開け難くなることから、調剤業務への支障、服薬コンプライアンスの低下が懸念されるとの見解を持っていること、また、製造面でも生産速度の低下による安定供給、薬価基準内の設備投資による経費面の影響等も懸念され、C R 推進への支障となっていることが窺われました。